

第8回 日本サルコペニア・フレイル学会大会の準備状況について

2021年11月6日（土）、7日（日）に大阪府の千里ライフサイエンスセンターにて、第8回サルコペニア・フレイル学会大会を開催いたします。

今大会は「幸福長寿のためのフレイル研究の新展開」をメインテーマとし、ワシントン大学の今井眞一郎先生による特別講演をはじめ、フレイル・サルコペニアにおける新規薬物治療や基礎研究、外科手術や臓器障害との関係、栄養・運動療法の最新知見、サルコペニア肥満、オーラルフレイル、社会的フレイルなどをテーマとしたシンポジウムを開催すべく、準備を進めております。また例年どおり、教育講演（Meet the Expert）、一般演題、高得点演題、ランチョンセミナーなども計画しております。



第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会長
大阪大学大学院
老年・総合内科学 教授
楽木 宏実



第8回日本サルコペニア・フレイル学会副大会長
川崎医科大学医学部
総合老年医学 教授
杉本 研

会員をはじめご参加される皆様が、サルコペニア・フレイル・ロコモ領域の最新知見を得られるだけでなく、相互の情報交換を行うことで日々の診療や今後の研究活動に役立つ機会としていただけることを心より願っております。一般演題の募集は5月6日から開始いたします。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の現状を考慮し、今回は現地開催とWEBのハイブリッド形式での開催という方向で準備を進めております。今後、開催方針に変更が生じた場合には随時ホームページにてお知らせいたします。沢山の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会
ホームページ <https://www.congre.co.jp/jasf8/>

第7回アジアフレイル・サルコペニア学会のご案内

第7回目のアジア・フレイル・サルコペニア学会は2021年11月5日(金)、6日(土)の2日間にわたって、韓国、水原市の光教にあるSuwon convention center (ソウル駅から地下鉄で30分)で開催されます。ハイブリッド開催の予定とのことでもうすぐホームページがオープンになります。あいにく日本の学会と重なりますので、現地参加は難しいかもしれませんが、Web参加は可能ですので、振るっての参加をお待ちしております。ホームページがオープンになりましたら、学会ホームページ、会員メールにてお知らせします。



日本サルコペニア・フレイル学会 代表理事
国立長寿医療研究センター 理事長

荒井 秀典

サルコペニア・フレイル指導士の認定申請に関する注意について

◆第3回サルコペニア・フレイル指導士認定申請について

第3回サルコペニア・フレイル指導士の認定申請を現在受け付けています（5月31日まで）。今回より認定制度が本稼働になっておりますので、申請資格や提出書類については注意をしてください。なお、2021年4月の研修会を受講した方も、申請条件を満たせば申請が可能です。＊詳細は、ホームページの「サルコペニア・フレイル指導士制度規則」をご確認ください。

◆活動報告について

サルコペニア・フレイル指導士の認定を申請される際、活動報告書の作成をお願いしています。この報告は、申請者自身の活動内容を評価するものです。必ず自身に関わった症例を報告してください。今年度からは、活動報告について、虚偽や不正がないことを誓約した上で申請して頂いております。

記載内容は、診断や評価結果、自分の専門性をどのように活かしたか、あるいは不足部分を他職種に連携したのか、カンファレンスを行ったり意見交換を行ったりしたのか、介入に伴う経過がどうだったのか、などを明確かつ学術的に記載してください。

◆Web形式での研修会参加時の注意

新型コロナウイルス肺炎の蔓延に伴い、2020年度から研修会をweb形式で実施しております。研修会への出席状況は、各講義担当者が、講義の中でキーワードを伝えますので、そのキーワードをメモして、講義終了後に事務局へ送ってください。キーワードの提出をもって、受講されたものと判断いたします。各講義の終了後に、キーワードを尋ねる質問が寄せられますが、その類の質問にはお答えをいたしませんのでご注意ください。



日本サルコペニア・フレイル学会認定指導士制度委員会 委員長
国立長寿医療研究センター
佐竹 昭介

The 11th International Conference on Frailty and Sarcopenia Research (ICFSR)開催のご案内

International Conference on Frailty and Sarcopenia Research (ICFSR) は、フレイルを有する高齢者を対象にフレイルの改善や健康増進を中心に、人材の育成や臨床研究を目的にされている団体です。

今年で11回目となるICFSRはアメリカ・ボストンで開催される予定でした。しかし、世界中でCOVID-19の感染拡大が収まらない中、現地での開催が急遽中止となり、完全Web開催と変更となりました。また変更点としては、当初の予定から2021年9月29日～10月2日の日程に変更となり、それに伴い完全なWeb形式での開催となったことから、登録料も大幅に割引となり参加しやすくなっています。今回、現地開催は中止となりましたが、もともとはハイブリット形式で準備されており、参加者にはWeb上でのディスカッションや情報交換に接することができる貴重な機会が提供されます。また、フレイルとサルコペニア研究の最新情報を入手できるチャンスにもなります。日本からはICFSR 2021の役員として鳥羽研二先生、荒井秀典先生が選出されています。

詳細はホームページより参照してください。<https://frailty-sarcopenia.com/>
また、TwitterでもICFSR2021の情報が見られます。@ICFSRcongress



しまばら病院
心臓リハビリテーション室

黄 啓徳

現状、世界中のCOVID-19パンデミックでは、まだまだ海外学会に直接参加するのは困難な状況ですが、Webを利用して日本にいながらも気軽に国際学会に参加できます。コロナ渦の中で世界中の人々は外出の機会が確実に減っており、日本だけに限らず世界中のフレイル・サルコペニアを有する高齢者の増加が容易に想像できます。わが国の今後のフレイル・サルコペニア対策や方向性を考える上でもICFSR 2021への参加は絶好の機会になると思います。

また、来年のICFSR 2022は2022年4月19日から22日の日程で、アメリカ・ボストンでの現地開催が決定されたことを報告させていただきます。

第一回アジア・パシフィック サルコペニア・フレイル研究会のバーチャルシンポジウム 2021年5月22日(日本時間:PM0:00-3:30)

第1回アジア・パシフィックサルコペニア・フレイル研究会のシンポジウムがオンラインで2021年5月22日、日本時間PM0:00-3:30に開催されます。学会ホームページは <https://anzssfr.org/future-meetings> で、HPより事前登録すれば無料で視聴できAAFSとANZSSFR会員はセッション後、録画を視聴できます。

本シンポジウムは、アジアサルコペニア・フレイル協会とオーストラリア、ニュージーランドのサルコペニア・フレイル協会の共催で、基礎研究、臨床研究、疫学研究において最新の知見が紹介されます。Alan Hayes教授(オーストラリア)、Liang-Kung Chen教授(台湾)、Hamish Jamieson博士(ニュージーランド)など、各研究分野のリーダーによる基調講演とそれぞれのエキスパートによる10のプレゼンテーションが予定されており、日本からは荒井秀典先生、河尾直之先生、細山徹先生がご登壇されます。

第1回となる本研究会がきっかけとなり、アジアとオーストラリア・ニュージーランドの研究や臨床が互いに発展することが期待されます。ふるってご参加ください。



国立病院機構高知病院
リハビリテーション科

神野 麻耶子

0:00 開会式

0:10-1:10 **基礎研究** 司会: Prof. Gustavo Duque (Australia), 河尾 直之教授(日本)

基調講演 動物モデルを用いたサルコペニア治療と予防の検討

0:10-0:35 Alan Hayes, Victoria University and Australian Institute
for Musculoskeletal Science (AIMSS) (Australia)

0:35-0:45 筋肉とサルコペニアにおける幹細胞の老化
細山 徹(国立長寿医療研究センター)

0:45-0:55 マウスの骨格筋老化の構造的、機能的な研究
Navneet Lal (New Zealand)

0:55-1:05 カルシウム代謝活性型ホルモンと筋肉-ビタミンDとPTHの最新の知見
Tara Brennan-Speranza (Australia)



Australian and New Zealand Society
for Sarcopenia and Frailty Research

1:10-2:20 **臨床研究** 司会: 荒井秀典教授、Prof. Debra Waters (NZ)

基調講演 生理機能・認知機能低下症候群: 不健康な老いの表現型

1:10-1:35 Prof. Liang-Kung Chen (Taiwan)

1:35-1:45 中高年のプレサルコペニア対策としての
高強度インターバル有酸素レジスタンストレーニング無作為化比較試験
Lara Vlietstra, University of Otago (NZ)

1:45-1:55 臨床における安静時エネルギー消費量とサルコペニア
Suey Yeung, Chinese University of Hong Kong (Hong Kong)

1:55-2:05 臨床応用: オーストラリアにおける体組成の基準値
Ben Kirk, University of Melbourne and AIMSS (Australia)

2:05-2:15 内在的能力とフレイルの関係を見極める
Justin Chew, Tan Tock Seng Hospital (Singapore)

2:20-3:30 **疫学研究** 司会: A/Prof. Joshua Lewis (Australia)
Prof. Lin Kang, Peking Union Medical College Hospital (Mainland China)

基調講演 オタゴ大学 Big Data and Better Ageing Research Group
標準化された全国的な評価によるフレイルスコアの信頼性と妥当性

2:20-2:45 Dr. Hamish Jamieson (オーストラリア骨格筋科学研究所, ビクトリア大学)

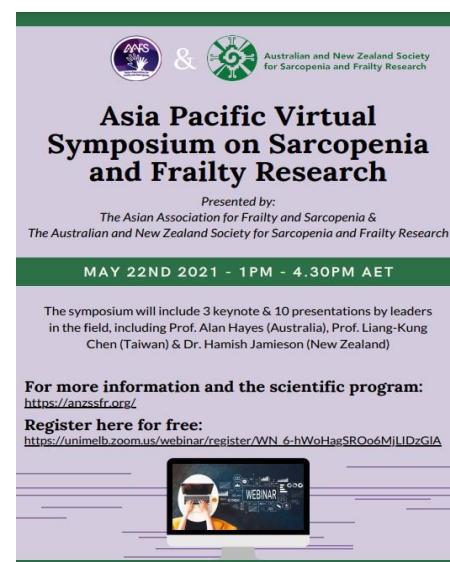
2:45-2:55 地域在住高齢者のフレイル状態と関連因子間の推移
Miji Kim, Kyung Hee University (Korea)

2:55-3:05 サルコペニアのバイオマーカー
Marc Sim, Edith Cowan University (Australia)

3:05-3:15 サイエントメトリクス分析とテキストマイニング

Ming Yang, Associate Director, National Clinical Research Center for Geriatrics (WCH),
Professor, The Center of Gerontology and Geriatrics, West China Hospital, Sichuan University

3:15-3:30 閉会式: サルコペニアとフレイル研究の未来
Jean Woo (Hong Kong)



論文紹介 「オステオサルコペニア： 骨粗鬆症とサルコペニアが衝突する場所」

Clynes MA, et al. Osteosarcopenia: where osteoporosis and sarcopenia collide. *Rheumatology (Oxford)*.2021 Feb 1;60(2):529-537. doi: 10.1093/rheumatology/keaa755.

近年オステオサルコペニアという新しい症候群が提唱されています。オステオサルコペニアは骨粗鬆症とサルコペニアの共存を意味します。論文紹介は、本年Rheumatologyに掲載されました、オステオサルコペニアの総説をご紹介します。

オステオサルコペニアの有病率はまだデータが不足しており明らかになっておりませんが、女性に限定した英国の研究では50%、中国人を対象とした研究では、男性で10.4%、女性で15.1%という報告があります。治療法として、現在、骨粗鬆症の治療には主に医薬品が使用され治療法も確立されていますが、骨粗鬆症とサルコペニアの両方をターゲットとした治療薬はまだ開発途中です。一方、生活習慣の改善には十分なタンパク質の摂取、レジスタンス運動、また、必要に応じてビタミンDの補充が提案されています。

骨粗鬆症とサルコペニアの共存は、ますます認識されるようになり、今後オステオサルコペニアの罹患率は増加すると予想されています。著者らは、骨粗鬆症とサルコペニアを併発するリスクのある人を特定することでオステオサルコペニアに介入し改善することができるとしています。オステオサルコペニアは新しい概念であるため、実臨床ではまだまだ見逃されがちかもしれません。今後より多くの研究がなされ、発見から介入までのシステム化が進むことが期待されます。

【レビュー目次】

- ・ 骨粗鬆症とサルコペニア共存の有病率
- ・ 骨粗鬆症とサルコペニア共存の結果
- ・ 骨粗鬆症とサルコペニアの関連要因
年齢、アルコール、喫煙、身体活動、ダイエット、年齢、性別、民族性
- ・ オステオサルコペニア肥満
- ・ 病態生理学
- ・ オステオサルコペニアの管理
身体活動、運動、栄養、治療対象者



NTT東日本関東病院
栄養部

上島 順子

病院における高齢者のポリファーマシー 対策のすゝめ

ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連した薬物有害事象のリスクの増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態です。ポリファーマシー対策は、フレイルやサルコペニアのリスクを増加させないために重要です。ポリファーマシーは、外来、急性期、回復期、療養期、慢性期など様々なケアステージに存在し、対策には多職種協力の協力が欠かせません。多職種カンファレンスが実施しやすい病院では、可能な限り処方調整を行い、次のケアステージへつなぐことが望まれます。また、処方変更の際は、定期的なモニタリングが必須です。高齢者の身体予備能力は、個人差はありますが中年期以前と比較して低いです。一度病態が下向きに進行すると元に戻るまでに困難が生じます。検討された薬の要・不要の判断には時間を要することが少なくありません。モニタリングが、ポリファーマシー是正の結果、病態安定を可能にします。



社会医療法人 原土井病院
薬剤部

中道 真理子

ポリファーマシー対策のはじめの一歩として、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) の視点をお勧めします。ICFは生きることの全体像を表現する多職種で使用可能な共通言語です。患者の訴えの多くは、個人の生活の中から発せられます。複数の専門職種によるICFの全人的評価から、多面的な情報が得られ早い段階で病態の変化に気づくことができます。

今年、厚生労働省より「病院における高齢者のポリファーマシー 対策の始め方と進め方」が示されました。高齢者の医薬品適性使用の指針と併せてポリファーマシー 対策の取り組みを進めるツールとして作成されました。自身の病院のポリファーマシー対策を推進する中で生じる問題点に答えてくれる内容です。現在のポリファーマシーを未来に継続させないためにポリファーマシー 対策が必要です。

一般社団法人 日本サルコペニア・フレイル学会

E-mail: maf-jasf@mynavi.jp HP: <http://jssf.umin.jp/index.html>

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株) 毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 FAX: 03-6267-4555